

平成30年度 事業報告書

養護老人ホーム 大慈吉祥園

1. <基本方針>

法人の基本方針である「和顔愛語」「上敬下愛」に基づき、ゲストが施設の中で人間として尊厳を保ち、健やかで快適かつ生きがいのある生活が営めるように努める。措置施設として社会的役割を果たせるように努める。

2. <平成30年度重点目標>

①遠藤メソッドを推進していく（3ヶ年計画の内の3年目）

介護技術標準の作成はメンバーが異動で減り目標の枚数に達していない。申し送りや会議を利用して、職員に出来上がった技術標準の説明を行うようにした。その場では理解してもらえたが、現場では活かされなかった。

部署内パトロール結果は会議で報告し、説明は行うが身につけるまでには至らず次年度も繰り返しの指導が必要である。

②介護サービスの質とゲストの満足度を高める

部署内研修を会議で実施でき、統一された介護・コミュニケーション力に関しては少しずつは改善しているが個々のやり方を通す職員もおり難しさを感じる。

処遇計画とケアプランをリンクさせるようにケアカンに出席、ケアプランと同じソフトを使用して行ないつつある。

情報共有は三日間の申し送りを見やすくするなどの努力はできたが、会議で決まったことの共有が図れていないことが課題である。チーム会議は定期的に行い昨年度より個別対応ができた。

★大慈吉祥園利用者数（定員70名）（女性55名 男性14名） 平成31年3月31日現在

年 性	年								合計
	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～99	100～104	
女	0	3	9	13	10	12	6	2	55名
男	0	3	5	0	5	1	0	0	14名
合計	0	6	14	13	15	13	6	2	70名
最高年齢	男歳93 女歳100		最年少	男歳70 女歳70			平均年齢 85歳 4ヶ月		

3. <栄養科>

①調理の味と質の安定を図る（3ヶ年）

厨房スタッフとの意見交換を行い、随時メニュー改善を行えた。検食簿より朝食があまり美味しくないとの意見があったので一部既製品に変更した。朝食の種類も増え、美味しいとの意見をいただくことができた。献立マニュアルについては調理師の協力もあり、53個作成を行えた。このマニュアルを活用し、誰でも安定した食事を提供できるように努めたい。

②笑顔になれる食事の提供

今年度はコンセプトメニューの提供（四季を感じられるメニュー）を目標とし、提供を行えた。また、料理提供時は手作りカードを渡すことでゲストに喜んでいただくことができた。

食事行事が例年バイキング式であったが今年度は差し込み式で行った。バイキング式では時間ロスが多く、提供までに時間がかかったが差し込み式にすることでスムーズな配膳ができた。また、食事形態に合わせた食事を提供することもでき、リスク軽減に繋がったように思う。食事アンケートは各施設の意見を反映することができた。ゲストの満足度が向上できる献立を考えていきたいと思う。

<行事食>

日付	行事名
4月	花見
5月	母の日、さつま芋団子
6月	父の日、羊羹2種
7月	七夕、七夕ゼリー、いい肉の日
8月	南国風バイキング
9月	かき氷バイキング、敬老の日
10月	栗羊羹、秋の味覚バイキング
11月	焼き芋、吉祥祭、刺身の日、おしるこ
12月	クリスマス会
1月	おせち
2月	節分、チョコプリン
3月	雛祭り

4. <<看護部>>

<目標>

安心・安全・安楽と思えるような心地よい看護を展開する

大慈弥勒園に準ずる

5. <<理学療法科>>

①生活リハ充実への手助けが出来る

生活リハに関しての、職員への助言等はあまり実施する事はなかった。現場職員の知識力の向上が見られており、対応能力が上がって来ている事で、色々な取り組みを現場自身で図る事が出来ている。退院後の対応に関しても、1週間程の様子観察等をする事で、適切な対応が出来ていたと思われる。相談に対しての指示・指導は、専門分野から提言試み、問題なく生活内リハの実施を図れた。

②緩和治療の充実

緩和治療の充実に対しても、現場職員による隠れ慢性疾患を持つゲストの抽出を実施し、充実を図る事が出来たが、年度後半に離脱者（良くなったゲスト・永眠等々）が増え、再抽出を図って行かなければならない状況である。

6. 《入浴》

曜日	午前入浴	昼入浴
月・火・水・金・土・日	10:00～11:00	14:30～17:30
火・金(女性) 水・土(男性)	9:30～11:45	13:30～14:30

7. 《職員会議等》

頻度	会議名		
月1回	法人運営会議	処遇会議	主任会議
	職員会議	各担当者会議	会計会議
随時	ケアカンファレンス	医務部会	事務部会

各委員会の活動については、大慈弥勒園に準ずる。吉祥園が独自で実施している会議に関して職員会議（第1木曜日の10時）、処遇会議（第3月曜日18:15）を実施した。各担当係会議（排泄・食事・レク）は日程調整しながら効率よく実施できた。其々の係がゲストの状態や今後の対応などを話し合い、全体会議で報告・共有させた。職員会議では行事・連絡事項・各係担当者からの報告など、主に共有すべき事柄に絞り、処遇会議に関してはゲストの処遇、看取りケア、職員への研修などを行った。

8. 《クラブ活動》

行事名	頻度	人数	講師等	行事名	頻度	人数	講師等
レクリエーション	毎日(グループ毎)	1～5名	職員	テーブルカラオケ	随時	10名	職員
シルバー体操	月8回(月・水曜日)2部分け	30名	村越先生 浦波先生	ラジオ体操 嚙下体操	毎日 日2回	全ゲスト	職員
華道	月2回(隔週)	10名	段先生	ニコニコツアー	随時	1名	職員
絵手紙	月1回	10名	シルバーカレッジ	麻雀	随時	7名	職員
ビデオ観賞会	随時	10名	職員	学習療法	随時	2名	職員
書道	月1回	10名	下村先生	大正琴	随時	2名	職員
園芸療法	月1回	6名	外部講師	買物ツアー	月2回	1～7名	職員
生活リハビリ	毎日(個別毎)	3名	職員				

クラブ活動に関して、ゲストの参加人数がゲストの状態低下・意欲低下により減少傾向にあるが、参加者には楽しんで頂けている。学習療法においても、職員の不足やゲストの状態低下により実施人数・回数の減少により次年度より休止する予定。普段のレクリエーションを充実させるため、昼の体操をDVDを流して職員が中心になって行ったり、ゲストの興味のある歌謡曲のDVDを流すような日を設け楽しんで頂けた。

9. 《年間行事》

月	年間行事名	月	年間行事名
4月	お花見(園内)、ボーイスカウト慰問、餅つき、寿司ツアー	10月	にこにこ保育園交流会、行事食(秋の味覚)、プチ旅行
5月	母の日お祝い会、寿司ツアー	11月	吉祥園祭、プチ旅行
6月	父の日お祝い会、寿司ツアー	12月	つぐみ保育園慰問、クリスマス会
7月	七夕、プチ旅行	1月	新年会、正月遊び、初詣(諏訪神社)書初め
8月	盆供養、花火(納涼祭)、行事食(南国風)、プチ旅行	2月	節分、バレンタインデー(おやつ)
9月	大慈園秋祭り、敬老のお祝い会(喜寿・米寿)、彼岸法要、プチ旅行	3月	雛祭り、ホワイトデー(おやつ)、彼岸法要

10. 《毎月の行事》

定例行事
誕生者会食(第3木曜日)、お誕生日会(第3月曜日)、お好み焼(第2・4日曜日)、健康チェック(体重・血圧測定)(中旬)、買物ツアー・にこにこツアー(毎週月曜日)、理髪(第2月曜日)、学習療法(3回/週)、園芸療法(第1木曜日)、月命日(第4月曜日)、ビデオ観賞会(随時)

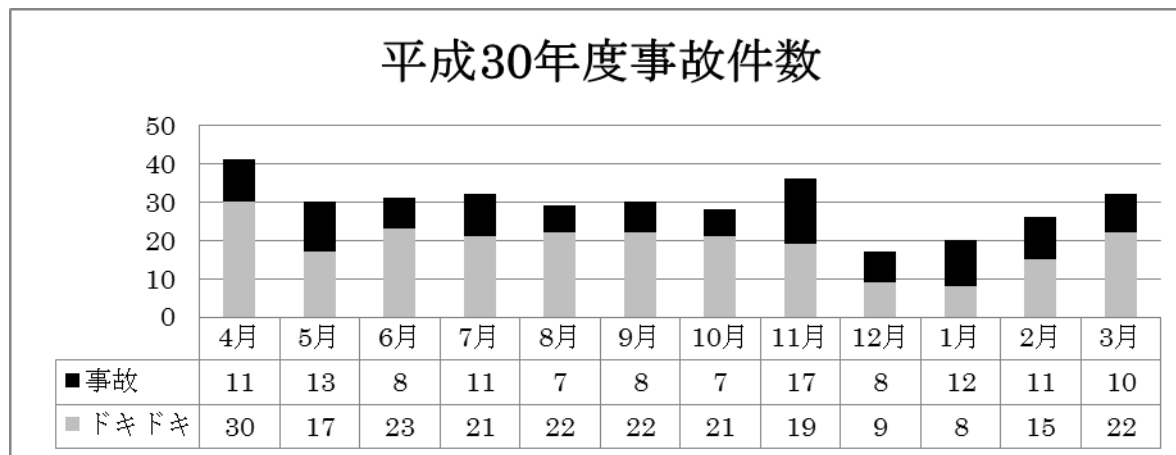
11. 《リスクマネジメント報告》

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とする。

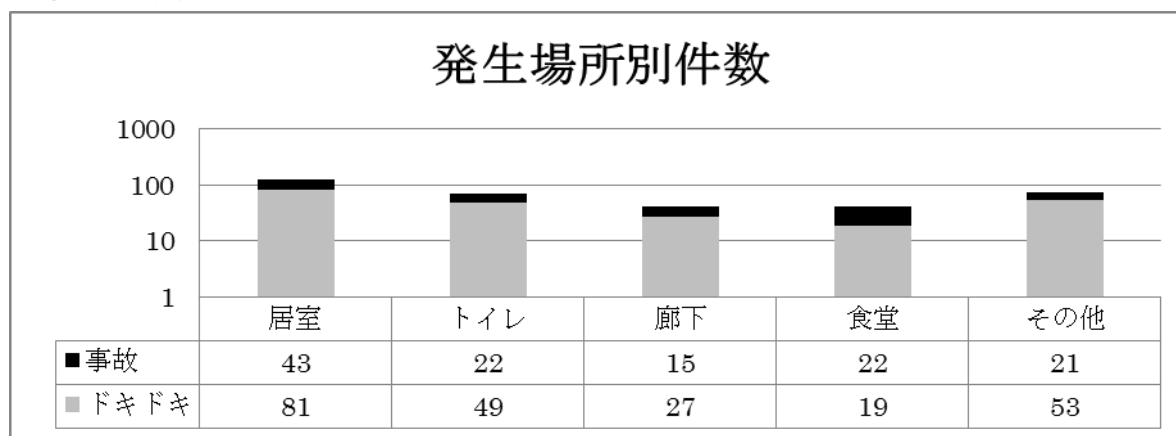
年度別報告件数

報告件数	平成30年度			平成29年度			
	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
	352件	123件	229件		312件	104件	208件

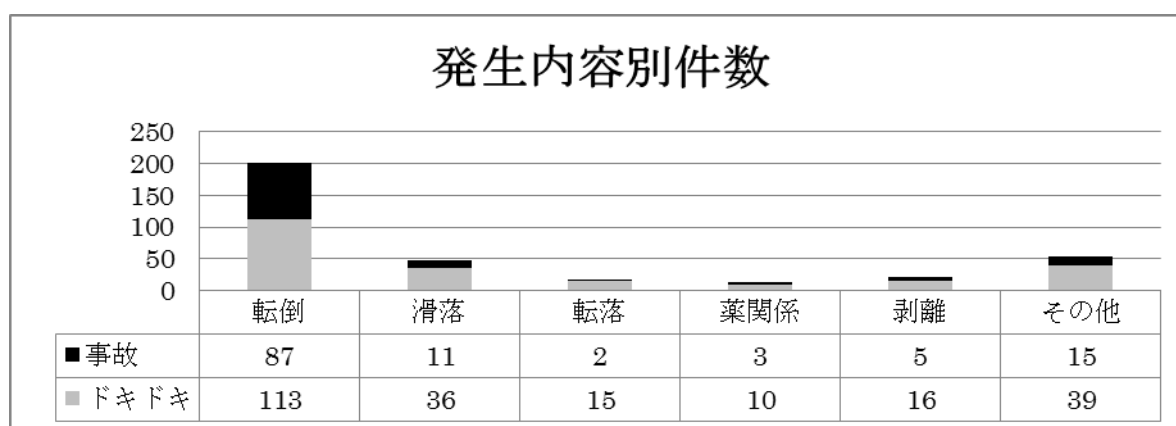
①事故件数



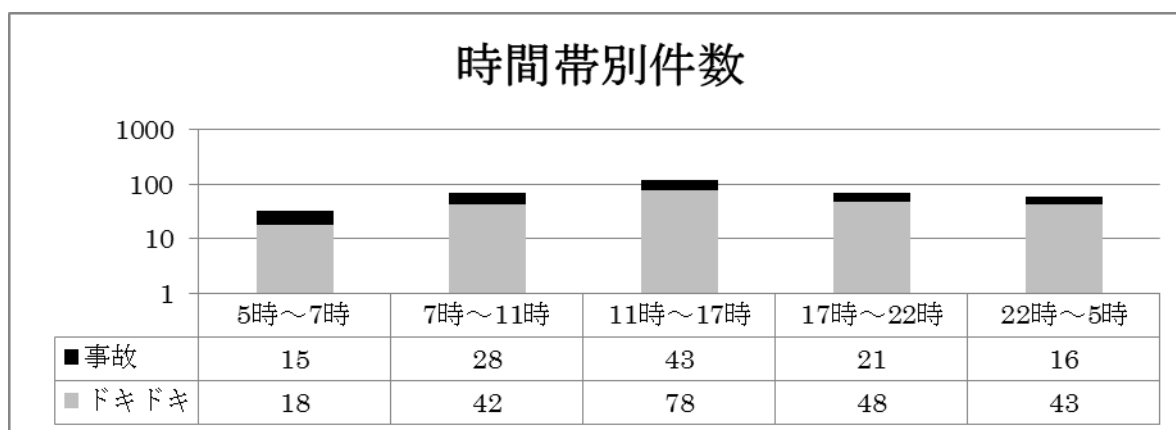
②発生場所別件数



③発生内容別件数



④時間帯別件数



⑤まとめ

前年比で事故が17件、ドキドキが21件増加している。職員によるミスに加え、ゲストの状態変化など、これまで事故がなかった、または少なかったゲストの事故が増加している。発生場所においては居室（トイレ含む）での事故割合が最も多い傾向は変わらないが減少傾向が見られる。（29年度62%→30年度54%）一方で居室と比べるとゲストの動向が把握しやすい場所である廊下、食堂、談話室での事故割合がいずれも増加した。（廊下2%↑食堂5%↑談話室3%↑）見守り不足や、職員の連携不足が要因としてあげられる。発生内容では例年通り、転倒事故の割合が大部分を占めている。（29年度67%、30年度73%）薬関係の事故は年々減少傾向にあるが0にできていない。時間帯別で見ると早朝（5時～7時）の事故が大き

く増加した。(29年度3%→30年度12%) 注意が必要なゲストが増え、またセンサー反応が重なる時間帯となっており、リスクを踏まえた優先順位を考え、対応することが必要である
と考える。

12. 《苦情・相談結果報告》

☆苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

報告件数

平成30年度				平成29年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	25件	0件	25件		36件	2件	60件

まとめ

ご自身の体調不良に伴い、他のゲストへの不満が募り傾聴するケースが同じゲストで年間4件あった。話しを聞いてほしい・教えてほしいという相談が半数あり、傾聴を行なっている。入浴時間の割り振りをしたが、運用後相談に来られ、調整し対応している。家族様から退所後に、入所されていた時の寄付金の問い合わせがあり、当時を調べて回答をすることがあった。ゲストの状態低下・体調に合わせて相手の思いを受容する対応を身に付けていく必要がある。コミュニケーション(接遇)についてチームで話し合っスキルを上げていきたい。

13. 《総括》

年度目標である遠藤メソッド推進に関して、全職員が順番に介護基準標準書を作成し枚数を増やすことはできたが、決めたことを徹底させることは、再度課題になってしまった。作成対象を絞り、新人教育にも実際に役立てていきたい。

介護力向上にあたっては、排泄・食事・生活リハビリ係で力を入れてゲスト個々にあった対応を検討し都度状態に合わせて対応を変えることができた。生活リハにおいては、別時間を作って実施することは難しく、全体的に楽しんで貰えるようなレクリエーションを中心に必要な生活リハビリ対応をしていくこととなった。

情報の共有に関しては、日々の復唱の中に緊急時の対応(ケース台帳の見方)の訓練を取り入れたり、サービス記録の仕方の研修や自己チェックシートでの振り返りを行い知識を深めた。次年度は職員それぞれの思いから自立支援に向けて等、コミュニケーション力を身につけることに取り組んでいく。